5年に1度の和牛のオリンピック

全国和牛能力共進会

去勢肥育の部

優等6席

祝 第12回 全国和牛能力共進会
第8区出場 稲本 民雄 様
頑張れ！ 宮崎牛
第十二回全国和牛能力共進会 鹿児島大会
祝 勝照福号 （父）勝光美 （母の父）福安照 ＝宮崎牛＝
第8区（去勢肥育の部） “めざせ 日本一”
出品者 串間市 稲本民雄殿 令和四年十月吉日 贈 いとこ会一同

10月6日～10日の間、「第12回※1全国和牛能力共進会 鹿児島大会」が行われました。

本市からは、本城地区の稲本畜産から「勝照福」が出場。出品者は稲本民雄さん。

小林で行われた宮崎県代表牛決定検査会にて、最激戦区の8区（去勢肥育の部）で選ばれた「勝照福」は全国の舞台で優等6席というすばらしい成績を収めました。

また同大会では、繁殖農家特別表彰※2も行われ、本市からは坂藤政文さんが受賞されました。

全国和牛能力共進会への道のり

10月6日～10日
第12回全国和牛能力共進会 鹿児島大会
全国から集まった有力牛から日本一を決める審査を迎え、会場内の熱気はピークに。

8月2日・6日
宮崎県代表牛決定検査会
宮崎県代表を目指す有力牛が集まる中、南那珂代表は堂々とした雄姿を見せていました。

5月30日 種牛決定
7月6日 肉牛決定
南那珂代表牛決定検査会
チーム南那珂を決めるこの日は、通常の品評会よりも会場に緊張が張り詰めていました。

※1 5年に1度、全国の優秀な和牛を一堂に集めて改良の成果や優秀性を競う全国規模の和牛の品評会。公益社団法人全国和牛登録協会が主催。別名「和牛のオリンピック」ともいわれています。

※2 坂藤政文さんの名義の子牛を通算1，000頭出荷したことによる功労者として受賞されました。

優等6席 畜産農家の想いここに

稲本畜産
稲本 民雄さん

――小林での宮崎県代表牛決定検査会で8区を獲得したお気持ちは？

小林で8区は驚きやったな。正直6区か7区に入らんければ無理と見てたもん。宮崎県代表に選ばれたそのあとにはもう「宮崎県の牛だ」っていう感覚やったね。

――全国和牛能力共進会鹿児島大会はいかがでしたか？

鹿児島大会まではもう長かった～。「元気でおればいいがね、どうやって持ちこたえようかね」って気持ちやったね。

先に牛が（知覧の肉牛会場に）着いて、サシがどしこ（どのくらい）あるかを車の中で聞いて、「12番やっちゃげな」って言われて「よかったねー！大きな恥かかんで済んだ」と思って知覧に行ったとよ。着いて枝肉を見て「おぉ！いい枝肉やね」が一番の気持ちやったね。「いいとこいくっちゃね？」って言ってもらったりしたとよね。んで、霧島泊まって、次の日、今回内閣総理大臣賞取った人と知覧に行く同じ車の中で結果を聞いたっちゃがな。なかなか8区を言われんから、「どげなっちょっちゃろかぁ…」て思っちょったら「おめでとうございます6席です」て言われたとよ。勝照福はうちの技術員が高千穂まで買いに行った牛で、その生産者は高千穂の技術員として来てたかい「ありがとうございます」とも言われたね。みんなもう「よかったねー！」ってなって涙が出たね。その明くる日に同じ車の人が内閣総理大臣賞を取ってくれたから「あぁーもうよかったね」ってチーム宮崎ね。やっぱり宮崎・鹿児島は畜産にかける姿勢が違うもん。

――5年後、リベンジしたいですか？

5年後は自分たちが元気であればね。1人が欠けたらできない仕事。健在して、今の実績をもっちょかな。崩れたらいかんかい。

それ相当のレベルをもっちょらないかんかい。

この成績を維持したいのが一番やね。エサ代が上がってきちょっけど維持しちょかないかんね。

繁殖にかける想い 毎日が勉強

繁殖農家特別表彰受賞

坂藤 政文さん
令和4年3月時点で2，438頭を出荷

――鹿児島の会場で繁殖農家特別表彰を受賞されたお気持ちは？

牛を出荷する段階で1，000頭以上というのはあくまで通過点かなって思ってました。でも実際、会場で表彰してもらえることになって現地会場に行けてよかったかなって。会場のいい雰囲気を味わえました。

――普段の飼育の中で心がけているところは？

子牛の健康状態や繁殖の部分ですね。発情を見逃さないことやボディコンディションとかですね。32年続けていても毎日が勉強です。子牛が産まれてから成牛になるまで目に見えない事故とか起きないように気が抜けないですね。例えば物を作るのは1から10のことをすればいい物が出来上がるけど、牛は1から10のことをしても必ず出来上がるわけではないから。

命を育てるからこそ目に見えないところも気が抜けないですね。

――これからの展望を教えてください。

息子が将来就農するために規模拡大ですね。

全国和牛能力共進会は機会があれば一度は挑戦したい気持ちはあります。

功績を振り返る担当の声

JAはまゆう
畜産部 主幹
武田 克樹さん

――宮崎県代表牛決定検査会で8区に選ばれたお気持ちは？

うそやろが～ぁって驚いたね。

正直、「無理やねぇ、今回は厳しいね…」と思ってたとよ。

もともとは見ちょった牛が違ったとよね。本当は7区で狙っちょった本命の牛がおったけど、途中の段階で脂が厚かったりいろいろなことがあって、やべーぇ！ってなったのは正直な話。そんなときに勝照福が急に伸びだしたとよ。

――全国和牛能力共進会に出品できて、担当としてどう感じましたか？

さすがやなと思ったね。悩んだ分だけあったなって。12頭を最初に4頭ずつの3つに振り分けるっちゃけど、養い方や好みもあるし、農家さんごとにバランスよく振り分けるのに一番頭をひねったですね。俺はそん時肥育担当になったばっかりで分からん中でやったけど…。あとは…ここ（稲本畜産）の技術がすげぇとよな。そして課長（JAはまゆう畜産部畜産業務課奥村課長）の仕掛けもあってのことやとよなぁ。母牛も選んで種付けから計画してるというのもあってのことやとよなぁ。

みんなが肥育を初めて出すし、それに花形の区やからみんなが一番納得できる形で出品できるようにまとめるのが一番やった。

誰一人「あれしちょけばよかった、こげしちょけばよかった」がなかった出品になったかなって俺は思っちょるとよね。みんなが納得していい形で出せたかなて思っていますね。

――5年後の大会、どう考えていますか？

これからの期待はやっぱり高いですわね、普段の出荷がいいかい。

5年後はやっぱり2頭出したいね。担当として、狙い方とか考え方を変えて5年先を見据えて早く動いていかんとって思いが強いですね。今回は稲本さんのおかげで行けたけど、いきなりじゃ勝てんていうのは率直な思いかな。

他の県はものすごくいい枝ができる種牛を持っていて、こっちは宮崎牛らしさを求めて作った牛やから正直、今回宮崎牛らしさで6席って相当すごいよねって思います。

宮崎牛らしさはこれからも追及していかんなんですね。